

木崎中だより

6号

平成28年9月30日(金)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

グローバル化社会を生きる君たちへ

校長 大澤 敬

早いものでもう10月になります。年度が始まってちょうど折り返し地点。今年は春に体育祭を行ったので、秋の日程は余裕がありました。その中から感じたことを書いてみようと思います。

去る9月21日(水)、関東地方をうかがう台風の動きに悩まされ、一時は中止も考えた2年生の校外学習が実施されました。今年の2年生の校外学習は班ごとに色々な国の大使館を訪ねるというユニークな企画でした。学年の先生の熱心な交渉により何と24ヵ国の大使館等が生徒を受け入れてくださいました。私も生徒を引率し、ポルトガル大使公邸とフランス大使館を訪問する機会を得ました。まずポルトガル大使公邸を訪ねました。公邸とは大使のお住まいです。場所は六本木のマンションの11階。とても広々としていて、家具や調度品はポルトガルを感じられるものでした。大使夫人と広報の方が我々を迎えてくださり、生徒たちはそれぞれソファに座り、説明を聞きました。その後、質問の時間になり生徒たちは用意した質問を英語で大使夫人に聞きました。夫人は英語で丁寧に答えてくださり、それを広報の方が通訳してくれました。

次のフランス大使館では厳重なセキュリティーチェックがありました。受付で私はパスポート(身分証明書として)を預け、X線での手荷物検査と身体検査を経て、やっと入館が許されました。テロの脅威と直接対峙している国の厳しさを感じる瞬間でした。近代的で洗練された建物の中に入り、いよいよ研修の開始ですが、広報の方、そしてフランス人の若い研修生2人が私たちの質問に丁寧に答えてくださいました。(この様子はフランス大使館のHPにアップされています。)

そしてもう一つ。木原先生の代わりにG・S科(グローバル・スタディー 今までの英語科)の先生が着任するまで、ここ数週間私は倉林先生と共に3年生の授業をしています。本当に久しぶりの授業なので上手くできないことも多いのですが、何とか英語を楽しく使えるようになってほしいと思いながらやっています。そこで感じたのは、みなさんはよく勉強しているし、英語を話す力も予想以上に高いという事です。

さて、私はこの大使館訪問とG・S科の授業を通じて考えさせられたことがあります。まずは当然ながら英語という言語の便利さです。24ヵ国の大使館に行っても全ての大使館で英語が通じるはず。その国の言葉を知らなくても英語ができれば意思の疎通ができます。これが英語を学ぶ大きな理由の一つですが、2年生はそれを実感できたのではないのでしょうか。3年生の授業に出ながら、この便利な道具をぜひ使えるようにしっかりと勉強してほしいなと思いました。中学校3年間の英語で日常生活を送れるくらいの英語力は身に付くのです。

そして英語の力よりさらに大切だと思ったのが、自分の意見をはっきりと述べる力の必要性です。大使館では用意した質問は上手く聞くことができました。しかし、逆に質問されると答えられなかったり、用意した質問以外の質問がなかなか出てこなかったりと、個人のコミュニケーション力にはまだまだ課題がありました。色々な国のことをたくさん聞きたかったはずですが、それを聞く勇気が、思い切りがないのです。これは国際社会ではとても不利なことです。何も言わない人は、何も考えてない人だと思われてしまうのです。世の中をよく勉強し、自分はどう考えるかを整理し、はっきりと表明できること、それが大切になってきます。今のうちから訓練しておくといいですね。皆さんが生きてのはますますグローバル化された社会です。日本人の美徳を失わず、しかし国際人としての資質も十分に身に付けた大人になってくれることを期待します。